

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-ウ	自然環境の再生	
施策	① 自然環境再生型公共事業の推進		
主な取組	自然環境に配慮した河川の整備	実施計画 記載頁	19
対応する 主な課題	本土復帰後、社会資本の整備等により本土との格差は正が図られた一方で、農地開発、ダム開発、土地造成、埋立といった大規模開発などによって自然環境の急速な改変が進み、自然環境に大きな負荷を与える結果となり、貴重な野生生物種の絶滅や生態系の搅乱が懸念されている。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	環境・景観に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図る。								
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体		
	0km 整備延長				→ 約4.7km (累計)	→	県		
	治水対策としての多自然川づくり								
	1河川 水辺環境の再生 に取り組む河川 数				2河川 (累計)				
河川の水辺環境の再生(リュウキュウアユの復元等)									
担当部課	土木建築部 河川課								

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
総合流域防災事業(河川) 中小河川改修事業費(交付金)	5,183,139 (2,221,538)	3,088,977	国場川、小波津川など21河川にて、環境・景観に配慮した多自然川づくりにむけた用地補償及び護岸工事等を行った。【一括交付金(ハード)】	再掲 1-(6)-ア 64頁
活動指標名			計画値	実績値
整備延長			0.9km	1.8km
水辺環境の再生に取り組む河川数			1河川	1河川
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	時間と共に価値が高まる河川環境・景観の創出により、住民の河川に対する美化意識及び地域イメージの向上が見込まれる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考

様式1(主な取組)

沖縄振興公共投資交付金(河川) 社会資本整備総合交付金(河川)	4,969,992 (2,211,479)	多自然川づくりにむけた用地補償及び護岸工事等を、18河川にて行う。【一括交付金(ハード)】	—
------------------------------------	--------------------------	---	---

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通りに進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
自然環境に配慮した河川整備の割合	63.2% (23年)	64.3% (24年)	増加 (28年)	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	良好な水辺環境・景観の創出に向けて、平成24年度は21河川にて用地補償及び護岸工事等を行った結果、自然環境に配慮した河川整備の割合は1.1ポイントの改善が見られた。成果指標の達成に向けて、引き続き事業の推進を図る。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点（内部要因、外部環境など）

- 1) 河川整備は、膨大な予算と用地物件の補償に多くの困難が伴い、一連の事業効果をあげるには多大な期間を要すため、地元住民の事業に対する理解と協力を得る必要がある。
- 2) 河川環境を再生し、回遊性生物等を復元するためには、流域全体の環境を再生する必要があることから、単に河川の整備だけでは復元できない。

(2) 改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）

- 1) 2) 河川に関係する関係部局(農林、海岸、港湾、砂防事業者等)、市町村、自治会等と連携して、多自然川づくりに向けた取組みを進める。

4 取組の改善案(Action)

- 1) 地元住民の理解と協力を得るため、地元市町村及び自治会への事業説明会及びワークショップなどを開催し、協働して事業を推進する。
- 2) 河川の整備だけでなく、流域全体を含めた河川の水辺環境の保全・再生のため、水質の維持・改善や河川近隣の整備等について、農林・海岸・港湾・砂防事業者等、関係機関と連携を図り事業を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-ウ	自然環境の再生		
施策	①自然環境再生型公共事業の推進			
主な取組	砂防施設機能改善事業		実施計画 記載頁	19
対応する 主な課題	本県の大きな財産である自然環境を毀損することのないよう、生物の多様性、環境の保全・再生に視点をおいた公共事業の実施や技術開発など、時間をかけて本来の姿に再生することが求められている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	既存施設である砂防施設について、生物の多様性、環境の保全・再生に視点をおき構造物の機能を改善することにより、自然環境の本来の姿に再生する。						
年度別計画	24 0溪流 砂防施設機能改善渓流数	25	26	27	28 →4溪流 (累計)	29~ →	実施主体 県
担当部課	土木建築部海岸防災課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
砂防事業	20,443 (20,443)	9,335 (9,335)	国土交通省と自然環境再生を図る砂防施設の整備方法の協議を実施。【一括交付金(ハード)】	—
活動指標名			計画値	実績値
砂防施設機能改善渓流数			0渓流	0渓流
—			—	—
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	国土交通省と協議を進め、自然環境の再生と土石流災害防止対策の両立を図っている。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
砂防事業	0	国土交通省と自然環境再生を図る砂防施設の整備方法の協議を完了させる。【一括交付金(ハード)】	—

(3) これまでの改善案の反映状況

計画より遅れているため、砂防施設整備方法の協議を完了させ、事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
自然環境に配慮した河川整備の割合	0渓流 (23年度)	0渓流 (24年度)	増加	0	－
参考データ	沖縄県の現状				傾向 全国の現状
－	－	－	－	－	－
状況説明	平成25年度中に国土交通省との協議を終え、平成26年度に工事着手に向けた準備を行い、平成27年度に工事に着手、平成28度年に4渓流について整備を完了させる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点（内部要因、外部環境など）

砂防施設上下流の自然環境再生を図る必要があるが、土砂災害防止機能の低下が懸念されることから、学識経験者等の助言を受ける必要がある。

(2) 改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）

砂防施設機能改善事業の整備方法の協議を進め、土砂災害防止機能が低下することがない自然環境再生整備案を策定する。

4 取組の改善案(Action)

砂防施設改善計画は、全国の事例、学識経験者の助言を踏まえて策定する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-ウ	自然環境の再生	
施策	① 自然環境再生型公共事業の推進		
主な取組	自然環境に配慮した海岸の整備	実施計画 記載頁	19
対応する 主な課題	本県の大きな財産である自然環境を毀損することのないよう、生物の多様性、環境の保全・再生に視点をおいた公共事業の実施や技術開発など、時間をかけて本来の姿に再生することが求められている。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	養浜による砂浜の創出、植栽による海浜緑地の創出等、自然環境に配慮した海岸の整備を行う。						
年度別計画	24 約0.6km 整備延長	25	26	27	28 →約1.8km (累計)	29~ →	実施主体 県
担当部課	海岸の水辺環境の再生(砂浜や海浜緑地などの創出)						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績							
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考			
海岸事業費	527,436 (346,236)	452,955 (332,662)	名護市の嘉陽海岸(L=208m)において、海岸背後地の緑化により緑陰の創出が図られた。【一括交付金(ハード)】	再掲 1-(6)-ア 64頁 2-(4)-イ 122頁			
活動指標名			計画値	実績値			
整備延長			約0.6km	約0.8km			
-			-	-			
推進状況	取組の効果						
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	年度計画どおり又は前倒しで取り組みを推進しており、海岸背後地の緑化により緑陰の創出が図られた。						

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
海岸整備費	120,907 (60,907)	名護市の嘉陽海岸(L=78m)において、海岸背後地の緑化により緑陰の創出を行う。【一括交付金(ハード)】	-

様式1(主な取組)

港湾海岸事業費	293,876 (116,876)	伊是名村の仲田港海岸において、養浜等により砂浜の創出を行う。【各省計上】	-
---------	----------------------	--------------------------------------	---

(3) これまでの改善案の反映状況

・嘉陽海岸においては、ウミガメが上陸・産卵する自然豊かな海岸であることから、産卵時期を避けて施工するなど、生態系や自然環境に配慮した整備を行っている。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
自然環境に配慮した海岸整備の延長	600m (23年)	808m (24年)	1,810m	208m	-
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
-	-	-	-	-	-
状況説明	海岸整備に関する有識者との意見交換や住民説明会を開催し、名護市の嘉陽海岸の整備を行った結果、自然環境に配慮した海岸整備の延長は208mの改善が見られた。引き続き、設計内容についての地元の合意形成に取り組み、海岸整備を行っていくことで平成28年度の目標値は達成できる見込みである。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点（内部要因、外部環境など）

・嘉陽海岸においては、ウミガメが上陸・産卵する自然豊かな海岸であるため、自然環境に配慮した整備が求められている。

(2) 改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）

・近年、大型台風による冠水被害が頻発しているため、自然災害から県民の生命・財産を守ると共に、環境へ配慮した整備との両立を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・今後、海岸整備にあたっては、地域住民など関係者と積極的に意見交換を行い、事業を推進する。